

Better Banking – Better Value



(証券コード: 8303)

株式会社新生銀行
2003年度 会社説明会

2004年6月7日

本資料には新生銀行およびその子会社等について将来的な業績、計画、経営目標などが記載されている場合があります。これらの将来に関する記述は、将来の出来事や業務環境の傾向に関する現時点での仮定・前提によるものですが、これらの仮定・前提は正しいとは限りません。実際の結果は様々な要因により大きく異なる可能性があります。特に断わりのない場合、本資料は日本における会計方針に基づいて作成されています。新生銀行は、本資料の将来的な業績、計画、経営目標などについて、実際の今後の出来事や展開を反映して後日改訂する義務を負いません。特に断わりのない限り、本資料の記述は連結決算に基づいたものです。新生銀行とその子会社以外の会社・金融機関に関する記述は、公開された情報に基づくものです。

2003年度 業績ハイライト

- 当期純利益は 664億円、前年度比 25.2% 増加
- 投資銀行業務を中心とした非金利収入は、663億円となり、総営業収支の 54%を確保
- リテールからの資金調達は全体の資金調達(市場性を除く)の 56%に増加
- 前年度比 6ポイント上昇
- 不良債権は 973億円に減少し、総与信の 2.8% に低下
- 2003年度は 1,359億円の減少
- 国内外の主要格付会社による信用格付の引き上げ

主要な業績項目で順調な進捗

順調な収益拡大

収益の概要 (億円)

	2001年度	2002年度	2003年度
総営業収支	1,198	1,077	1,235
経費	695	697	701
当期純利益	612	530 ⁽¹⁾	664
<hr/>			
ROA	0.7%	0.7%	1.0%
ROE ⁽²⁾	10.1%	8.1%	9.4%
調整後 ROE ⁽³⁾	9.9%	10.2%	14.6%

1. 米国社債投資による損失、約200億円を含む

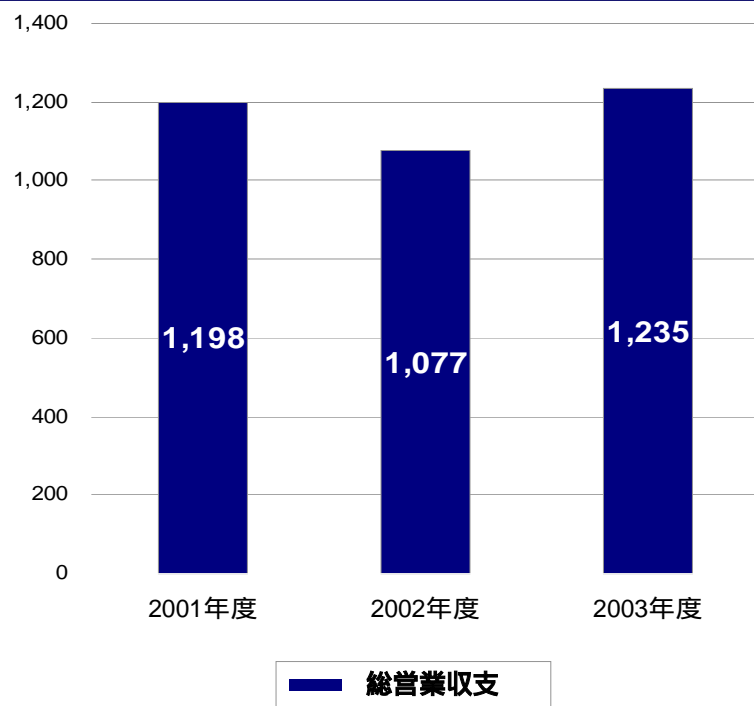
2. 優先株式を含む株主資本総額に対するROE

3. 調整後ROE = 当期利益/調整後株主資本平均残高 (調整後株主資本 = Tier 1 を10%と仮定)

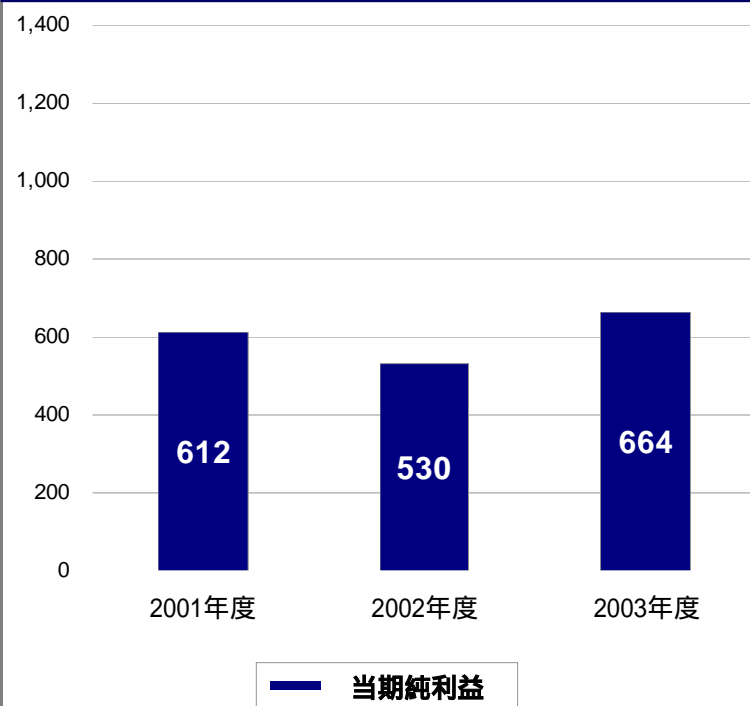
(注)総営業収支は、当行内部管理上の区分です

総営業収支と当期純利益

総営業収支
(億円)

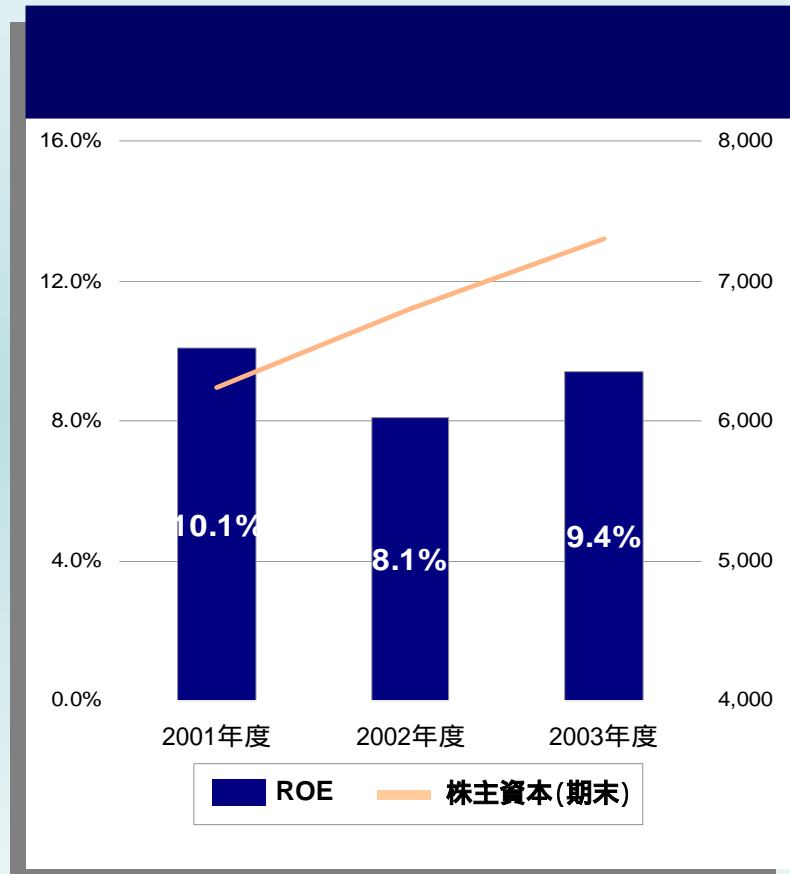
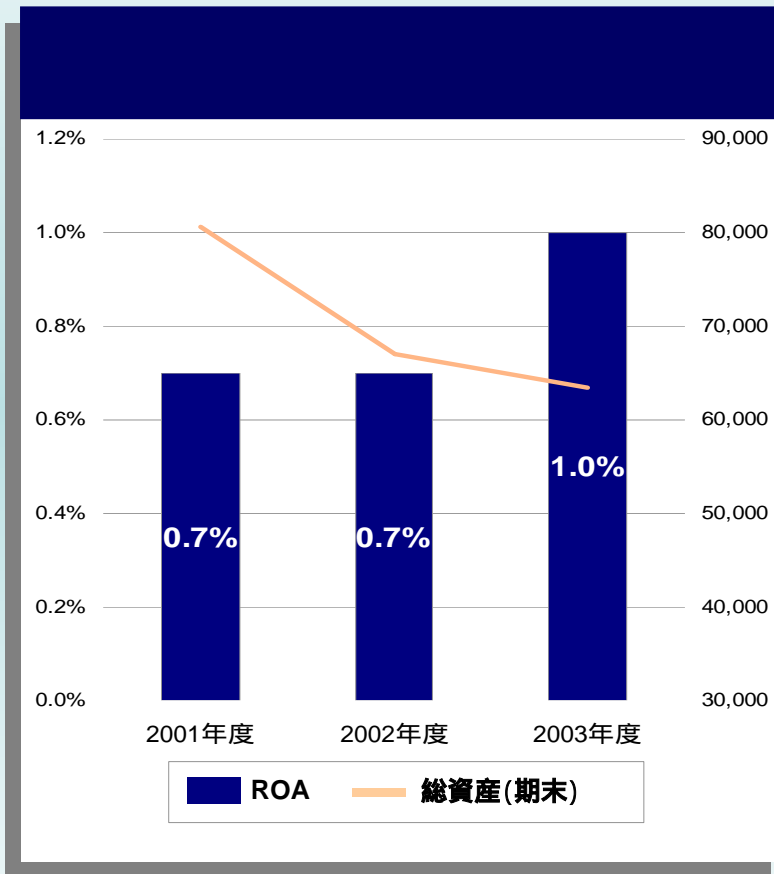


当期純利益
(億円)



(注) 総営業収支は、当行内部管理上の区分です

ROA と ROE



1. 優先株式を含む株主資本総額に対するROE

収益性の向上を目指した戦略

インスティテューショナル部門

- ・ 金融商品スペシャリストとRMの一体化
- ・ 取引先のニーズに応じたソリューションの提供と、良質な資産の積み上げ
- ・ 商品・サービスの多様化、取引基盤の拡充
～ クロス・セリングの推進

リテール部門

- ・ 全体の顧客ベースのさらなる拡大
～ ローコスト・チャネルの展開
- ・ お客様の視点に立った、商品・サービスの拡充
- ・ 富裕層のお客様をターゲットとしたアプローチ

強固なバランスシート / 資金調達力による収益拡大

インスティテューショナル・バンキング: 多様化した商品・サービス

➤ 従来からの商品

- 貸出
- 金融債
- 外国為替 / デリバティブ

➤ 新しい商品・サービス

- クレジット・トレーディング
- 証券化 (ABS、MBS)
- ノンリコース・ファイナンス
- 企業再生、プライベートエクイティ
- M&Aアドバイザー
- ノンバンク・ファイナンス
 - 不動産担保付ローン
 - 無担保ローン
 - 住宅ローン
 - 割賦ローン

リテール・バンキング: 革新的な商品と質の高いサービス

➤ 従来からの商品

- 普通預金
- 定期預金
- 金融債

➤ 新しい商品

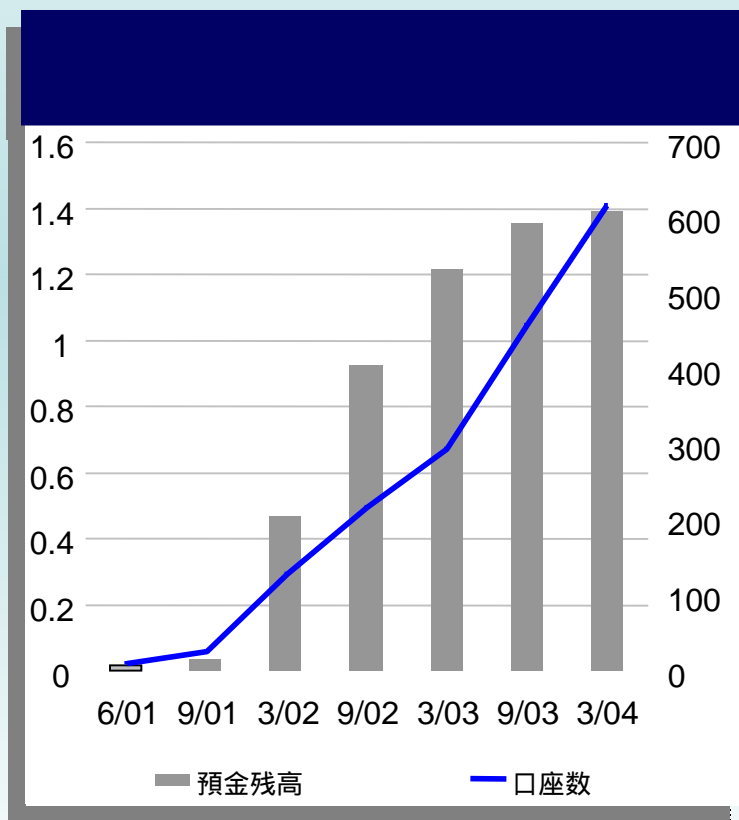
- PowerFlex – 総合口座
- 外貨預金 / 普通預金
- 投資信託
- 変額年金保険
- 富裕層向特定商品
- PowerSmart 住宅ローン

➤ 新しいサービス

- 24時間365日稼動
ATM、コールセンター、インターネット・バンキング
- ATM ネットワーク (IYバンク、京急他)
- インターナショナル・キャッシュサービス

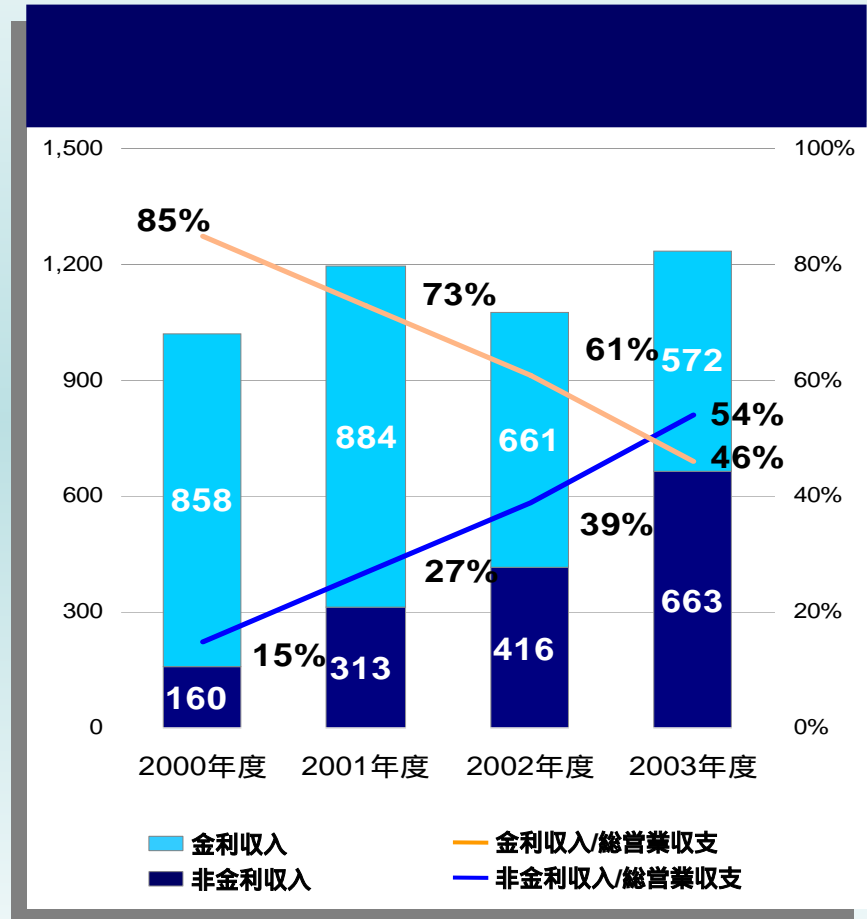
リテール・バンキング: リテール預金と住宅ローンの増加

- PowerFlex預金、2003年度 15%の伸び
- PowerSmart住宅ローン残高は、1400億円を突破



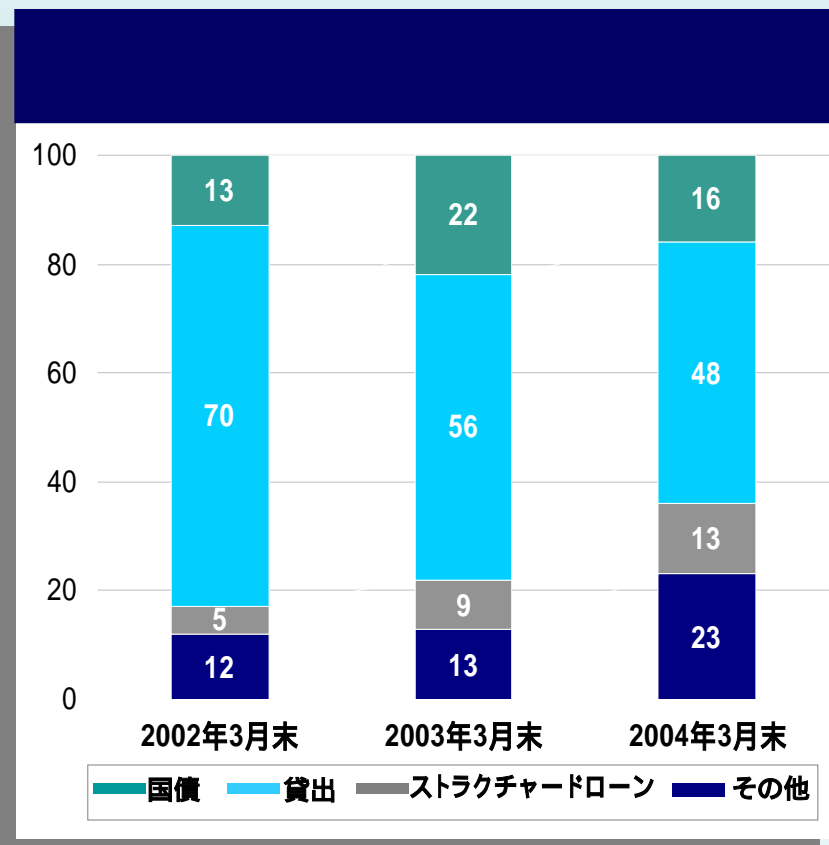
収益構造の多様化

- 収益多角化の一層の進展
- 非金利収入の増加が、全体の収益の伸びに大きく貢献

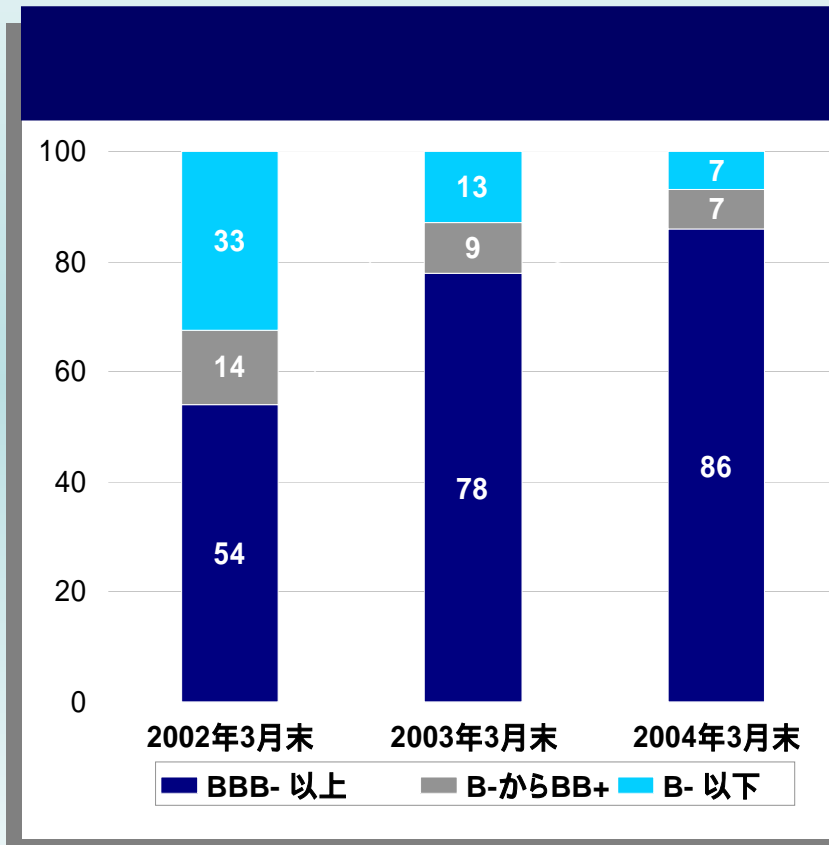


(注) 総営業収支は、当行内部管理上の区分です

リスク・アセットの構成と資産の質



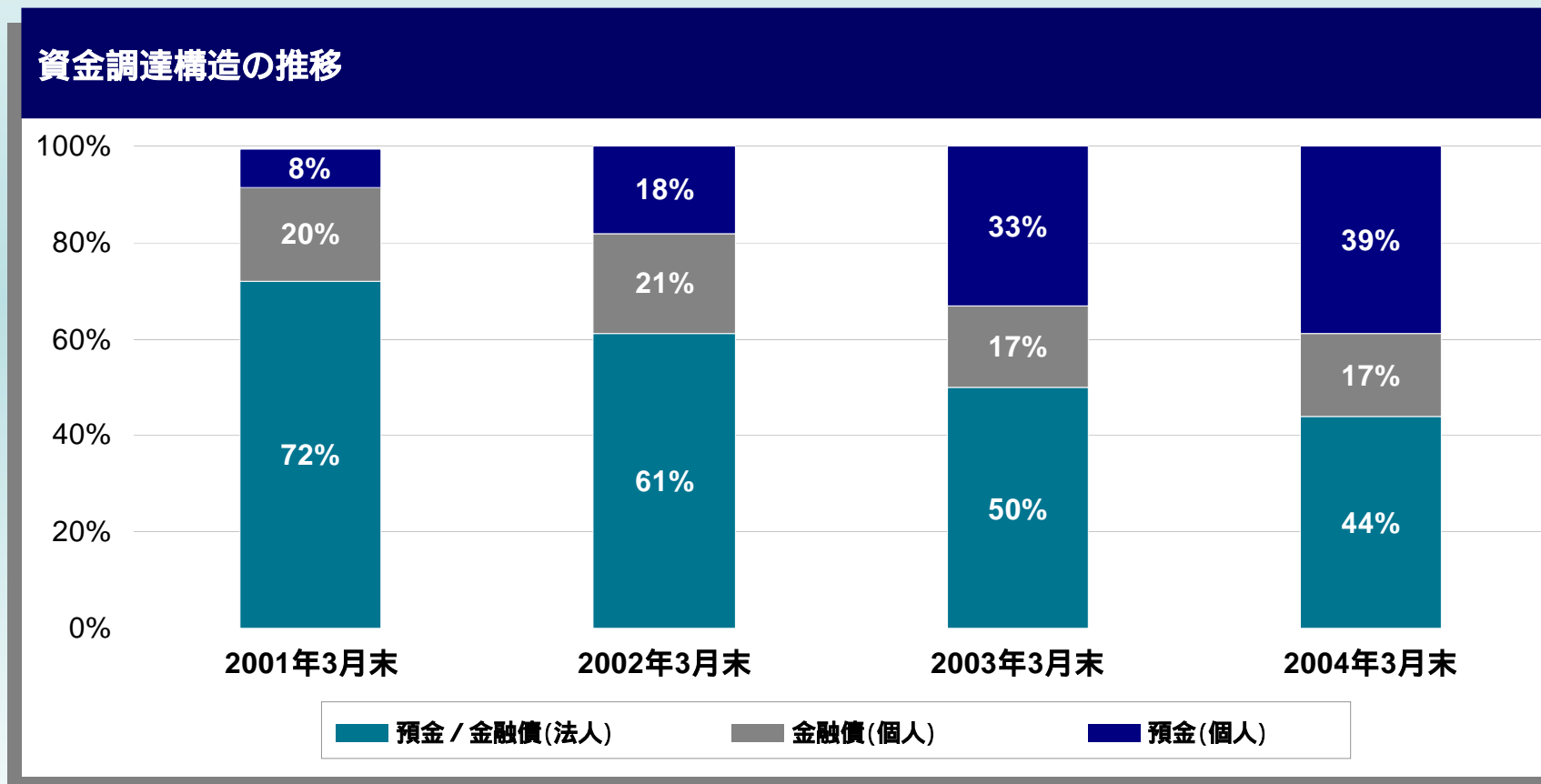
1. 当行内部管理ベース、会計上の勘定科目とは異なる



1. 行内ファシリティ・レーティング基準に基づく(R & Iの格付に対応)

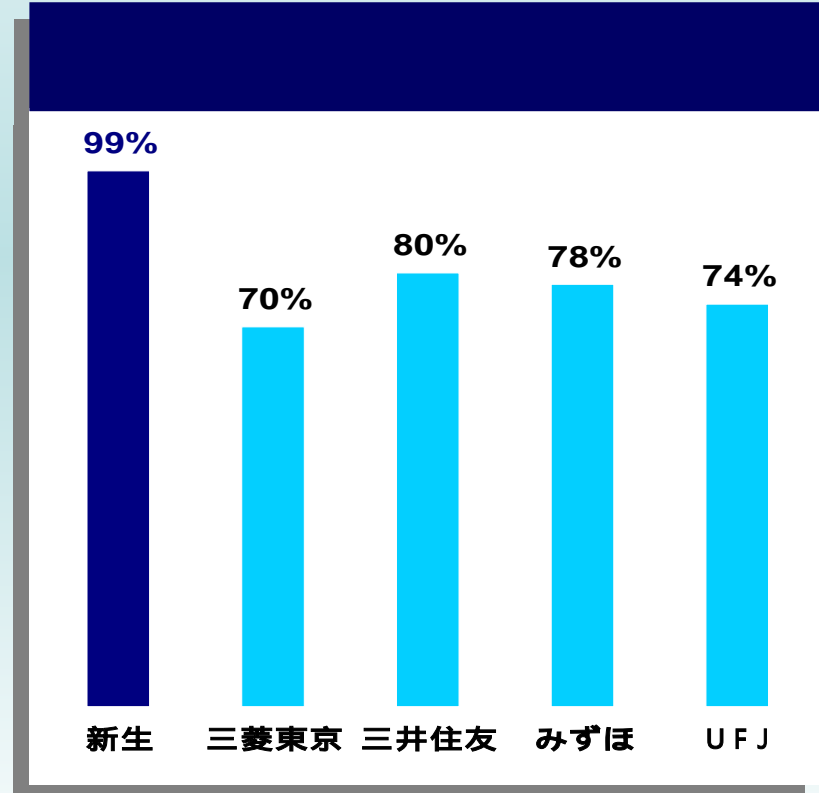
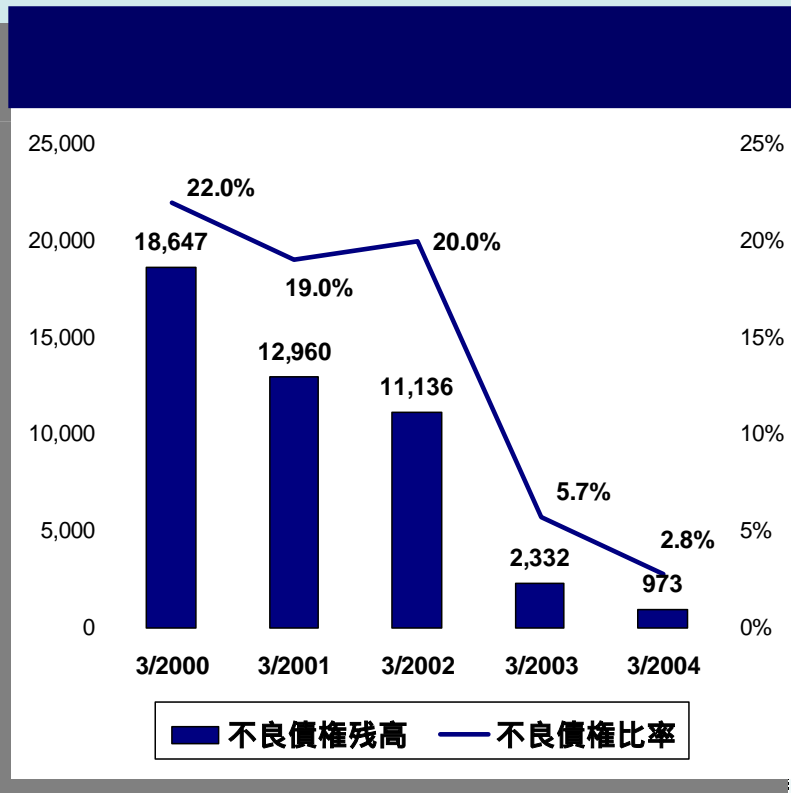
資金調達構造の多様化・改善

- 負債構成の劇的な変化:
低コスト・多様化した資金調達ソース



健全なアセットクオリティー

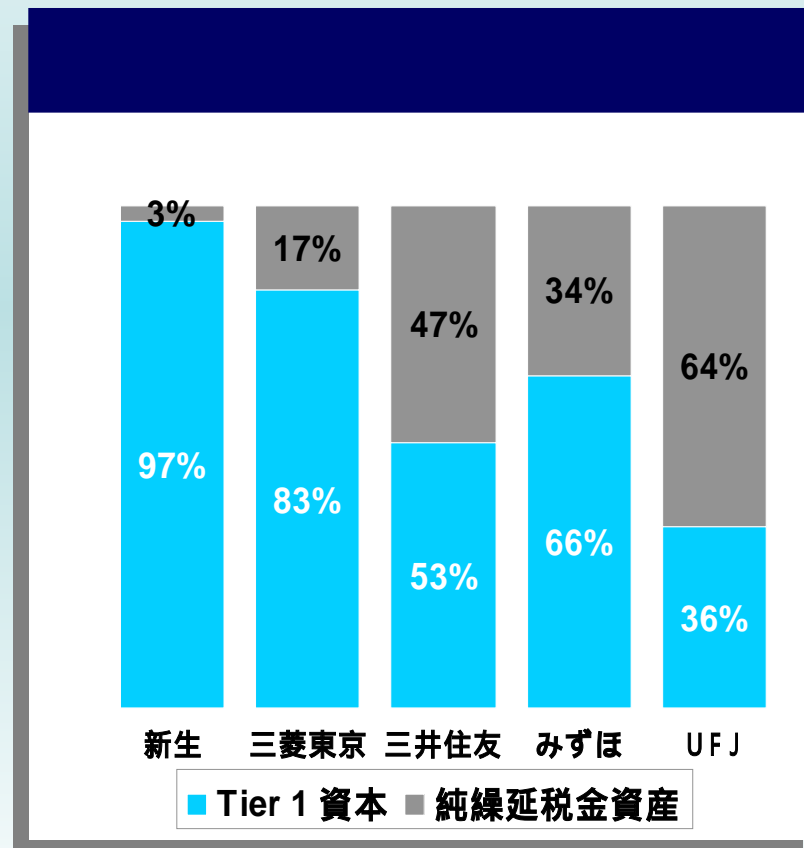
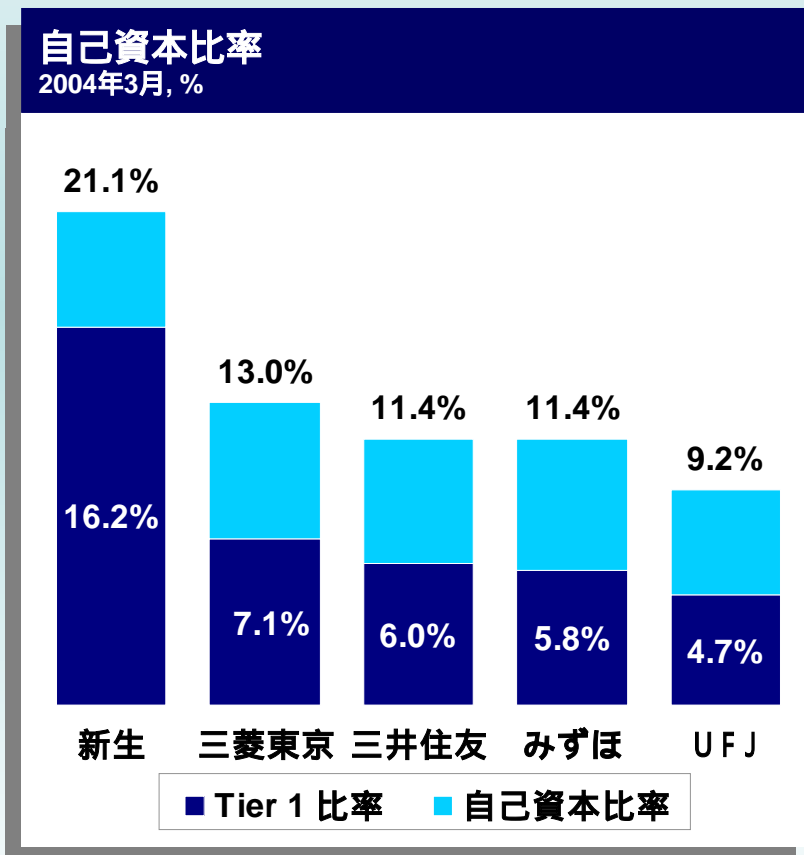
- 過去4年間で1兆8千億円の不良債権を削減(94%)
- 大手他行比もっとも高い保全率
- 十分な引当水準を引き続き維持



1. 単体ベース、金融再生法に基づく開示不良債権

自己資本の一層の改善

- 業界トップの自己資本比率
- 高い資本の質



2003年度のハイライト

- 業績・財務目標の達成
- 新しいビジネスモデルの定着
- IPOの成功 / 東京証券取引所第一部への上場
- 2004年4月から普通銀行へ転換

新生銀行： 明確なプライオリティ

- 取引先のニーズに応えた金融商品ノウハウとRMが一体化した
インスティテューショナル部門
- お客様の視点に立ち、常に新しい商品・サービスを提供してゆく
リテール・ビジネス
- 強固で健全な資産の質・資金調達構造・自己資本
- 持続的企業価値向上を目指す経営
 - 戦略
 - アクションプラン
 - 予算

お客様と株主に、価値とリターンを生み出す